

会員のひろば

最近の世相を見て

萬木甚一良

平成の世は、「一物が栄えて心が滅びる時代である」と言わされてきたが、正にその言葉どおり、連日、新聞やテレビで想像もできない異常で残酷な事件や耐震偽造の詐欺行為が報道されている。人々は、地獄の底に蠢いている餓鬼に堕してしまったように思われてならない。このような社会状勢の出現は、人々の心から宗教心が失われたことも一因ではなかろうか。藤樹先生は、その著「原人」「持敬図説」「翁問答」「鑿草」で、彼独特の宗教思想を展開しているが、再読玩味して藤樹の心にせまり、われわれの会から藤樹の宗教心を人々に発信し敷衍していくことも、大切な活動の一端ではなかろうか。

り本来の家庭教育機能も低下しがちで子供の成長過程で必要な家庭のきずなや役割が薄れしており、一方少子化時代となり、藤樹先生のいう「姑息の愛」に育てられがちで、子供のわがままを認めてしまうことが多い。ゆえに自分本位であまり他人や社会のことを考えない人間になつているように見える。このような社会状況の中で人間としての在り方に、日常生活の心がけや実践を説いている藤樹先生の教えが大きなヒントになるのではないか。このフォーラムに参加して、自分なりに理解と感銘を受けました。また大洲藤樹会の歴史と会員のことを聞き及んで教育者や行政のみでなく、一般会員も多く、藤樹先生の教えを継承していくことになり日夜、努力されておられる方々に心より敬意を申し上げます。

ウム。久保田暁一先生（本会顧問）の司会で、4名のパネリスト藤樹の心を現代のなかにどう生かすかを議論されました。パネリストのお一人、廣瀬童心先生（童心塾主宰）は、私にとっては人生の師であり、その先生が「藤樹のいう良知とは、笑顔だと思う」と話されました。私は、笑顔の大切さに深く共感を覚えました。

北川暢子 生誕400年を意義あるものに

2008年には藤樹先生の生誕400年を迎えます。毎年、生誕や年忌を記念する行事は儒式の祭典・立志祭等で行われていますが、50年ごとの大祭は、大きな記念事業をもつ特別な形で、開催されてきたと聞いています。この400年記念を迎えるため、準備委員会を昨年の秋に立ち上げました。この準備委員会では、貴重な節目を生かして先生の学徳や生き方を地元高島市内だけでなく、県下、全国関係各地へ広めたいと考えています。その先生の学徳をさまざまな事業として展開し、伝えたいものです。高島藤樹会員の皆様からもご意見を、ぜひお願いしたいと思います。今後も何かとご協力をお願ひする機会が多くなるかと思いますが、よろしくお願ひします。

中江	山本	古谷	清水	田中	井上	多胡	萬木甚	高橋	武田	小林	安本	足立	三田村潤子	井花	川越	石田	鎌田	飯田	北川	弘部	上田藤市郎	松本孝太郎	安原	玉垣	松下龜太郎	英勝
義彰	芳實	次行	清彦	直彦	賢一	良	鐵	清	志	樹	定	勝	忠伸	成	權	樹	清	司	隆雄	弘子	一彥	典子	暢子	健次	啓	(市長)
記念	曇	曇	曇	曇	曇	曇	高	高	高	高	安	安	朽	新	新	今	今	今	今	今	今	安	安	朽	今	(島)
館	川	木	島	島	島	島	川	木	旭	旭	津	津	津	津	津	津	津	津	川	川	川	木	木	ノ	津	(學識經驗者)

奇稿のお願い！